

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	第 8 回 近江八幡市オープンガバナンス推進協議会		
開催日時	令和 7 年 3 月 1 9 日（水） 1 3 : 3 0 ~ 1 5 : 2 0		
開催場所	近江八幡市役所 4 階 第 3 ・ 4 委員会室		
出席者 ※会長等◎ 副会長等○	奥村裕一（◎）、佐藤典司、杉浦裕樹、重野弘樹、東山孝三郎、 中田幸雄、岡敦哉、西山悟、山田恵美、高尾一成 （欠 席） 堤昭憲、木村真平、田口真太郎、谷口晟士、的場保典 （関係課・事務局） まちづくり協働課 武田善雄 総合政策部企画課 土井忠史、東有希、橘直樹、野田有寿華 ※敬称略、順不同		
次回開催予定日	未定		
問い合わせ先	所属名 : 総合政策部企画課 電話番号 : 0748-36-5527 メールアドレス : 010202@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録 ・ 要約	要約した理由	議事内容について、簡潔に分かりやすくするため
内容	1. 開会 2. 議題 （1）令和 6 年度 近江八幡市オープンガバナンス推進事業の報告 （2）近江八幡市オープンガバナンス推進事業の総括および今後の展開 3. 閉会		

担当課⇒総務課

会議記録（要約）

事務局	1. 開会 ・開会、進行 ・欠席者（堤委員、木村委員、田口委員、谷口委員、的場委員）報告 ・会長挨拶 ・資料確認 ※以降の議事は、近江八幡市オープンガバナンス推進協議会設置要綱第 6 条第 1 項の規定に従い、会長が進行。
事務局	2. 議題 （1）令和 6 年度 近江八幡市オープンガバナンス推進事業の報告 ・資料 3 「令和 6 年度近江八幡市オープンガバナンス推進事業」に基づき説明。
会長	・ただいまの説明について、何かご質問・ご意見がありましたらどうぞ。
A 委員	・オープンガバナンスの仕組みは自治連合会やまちづくり協議会は把握しているのか。 ・この協議会には当て職で参加しているが、このような話は一度も聞いたことがない。 ・どのようにしたらまちづくりがうまくいくか、ということだと理解するが、これはどの学区においても課題になっている。以前からあったのであれば連携できたこともあったと思う。もっとアピールして欲しかった。
企画課	・指摘のとおりである。来年度以降の取組方針として、このあと説明させていただくが、この 5 年間で様々な取組を行い、実証してきたので、その結果を各まちづくりの取組みにうまく浸透させて、反映させていきたい。
B 委員	・ガリバーマップの手法について、俯瞰で自分たちのまちがどうであるのかがわかり、仲間と共有する観点から評価している。反応がよかったのであれば、横展開を図りたい。 ・オープンデータについて、成果を市民ともっと共有できるとよい。 ・まちのコインについて、有効活用するためには、多くの人に知ってもらうことが肝要。この点については、後ほど伺いたい。
まちづくり 協働課	・（今回のガリバーマップ等は）局所的な取組になってしまっているので、今後は横展開を積極的に図っていきたい。
企画課	・オープンデータの充実について、これまで消極的であった。行政が保有する情報を広く提供することで、まちづくりに役立てていきたい。
会長	・ガリバーマップは、まちの人にとって親しみやすい。北里学区での取組をまち全体に広げていくことが大切。 ・住んでいても、まちのことを知らない人は多い。こういった人たちにアプローチする手法としても有効。その結果をオープンデータで公開してもよい。 ・今年のチャレンジ!! オープンガバナンス 2024 において、茨城県水戸市で

は、生徒たちがどんなオープンデータがあるのかを調べ、知恵を出した結果、駐車場の空きスペースで規格外の野菜を販売するアイデアを出した。元となるオープンデータがあってできたことなので、そのような取組ができるとよいと思う。

B 委員

- ・オープンデータの活用について、行政が実施事業をとおして収集するデータを積極的に公開することで、さらに様々な事業展開に役立てることができる。横浜市では、幼稚園や保育園の保有するデータを公開することで、子育てに関するアイデアにつなげるなどの事例が存在する。
- ・様々な分野の人たちに使ってもらえる仕掛け・工夫を具体的に考えるとよい。

事務局

- (2) 近江八幡市オープンガバナンス推進事業の総括および今後の展開
- ・資料4「近江八幡市オープンガバナンス推進事業 総括および今後の展開」に基づき説明。

会長

- ・これまでの総括を行い、今後の方向性を示してもらった。
- ・令和2年度のオープンガバナンスの構築イメージに関して、フェーズ2までは達成できたが、フェーズ3には至らなかったという説明であった。オープンガバナンスは市職員の意識変化に加え、市民の意識変化も必要になる。これを踏まえるとこれまでの5年間は試行錯誤の期間であり、これから実行フェーズに移るものと理解する。
- ・市民の意識変化については、若い人たち中心にこれから考えていってもらいたい。
- ・担当課としては頑張って実施されてきたが、庁内での浸透はまだこれからと感じている。今後、どのようにしたら行政がオープンガバナンスのプラットフォームとなりうるのか、おざなりにではなく真剣に考えていってもらいたい。
- ・参考資料を用意させていただいたのだが、三方よしの理念は、オープンガバナンスの理念に置き換えることができる。公共サービスをみんなで担っていこうという思い。市民自身も「地域のことは自分ごと」として自ら担い手になることが必要。行政は公共サービスを共に作る＝プラットフォームを作ること、どうしても組織の視点で見てしまいがちだが、市民視点にチェンジすることが必要。企業はCSRの観点から関わる範囲を公共サービスへ拡大し、自らの専門知を世間のために広く提供することが必要。
- ・この3つが上手くかみ合って三方よしになると、更により公共サービスができるだろう。その先兵としての近江八幡であってほしい、そのためにこの三方よしをうまく使ってほしいという、私からのメッセージである。
- ・資料4の中にももっと開いて市民の話を聞いてほしい、市から情報発信をしてほしいという視点があったが、行政職員は自らの立場をいったん離れて、袂を脱いで、市民の立場になってみるのが大切。他方で市民も、全体を見て苦勞している市職員を温かく受け入れてほしい（これもある種の立場の入れ替え）。<ただし、どちらも上下関係ではなく同じ人間だということから出発して欲しいそうして自分をじっくり見直すことが自己の成長の機会となります。(京都学派西谷啓治の哲学より敷衍)>

C 委員	・住民主体の福祉のまちづくりを考えて活動している。段々と地域の組織が弱まってきており、どう継続していくかなど、これからの支え合いの基盤をどのようにすれば作り上げられるかの参考になればと協議会に参加してきた。住民も「このテーマなら関われる」など、きっかけをどのように作っていけばよいか、ヒントを得られればと思い参加してきた。 ・まちづくり座談会では、多様な課題解決に向けて、地域住民だけではなく、福祉の専門職や医療職、企業など、多様な人の参加を得て進めてきた。最近では市職員の参加も得られるようになってきた。次年度以降に市職員向け説明会を行われるのであれば、企画やまちづくり部門だけではなく、様々な部門にもかかわってもらえるようなアプローチもお願いしたい。 ・私たちも身近な取組として「まちのコイン」なども、使えるツールは活用したい。HP を変える、web 参加できるような仕組みづくりなども社協としてもしていきたい。部門を超えた連携ができれば有難い。
会長	・部門を超えたということは大切なポイント。市民にとったら部門は関係ないので、それを超えた繋がりをこれからも続けていってもらいたい。
D 委員	・5年間関わらせてもらった感想・反省として、オープンデータやデジタルプラットフォームは手段の一つに過ぎなかった。でも、オープンガバナンスの考え方や精神自体は正しく、これからも活用すべき。 ・「自分ごとにする」には「自分ごとにする」と「自分も参加する」の2パターンある。「自分ごとにする」は80%程度でよい。「自分が参加する」はなかなか難しいので、20%くらいでいいと思う。 ・「自分ごとにする」ことは、上から押し付けるきらいがなかったかと、反省する点もある。 ・ガリバーマップは素晴らしいと思う。オープンデータ自体は、無機質なものだが、このような形にすると、情報が身近になるし、自分ごとにも自然となりやすいのかなと思う。 ・成果が最初から出なくてもよいと思う。遊びと絡める、伝統行事と絡める、スポーツと絡めるなどあれば自然と自分ごとになるのでは。
E 委員	・感想中心になるが、まちづくりは一足飛びにはなしえない。 ・オープンガバナンスに関して、データにどのような価値を見出すかは人それぞれなので広く提供してもらいたい。 ・まちづくりに意欲的な方はNPOなどで活躍されているが、なかなか前進する方向性を決めきれない場合などもある。そういうときに行政がスポットを当てて、サポートすることがオープンガバナンスの一例なのかなと考えている。 ・誰もが、中心になって動くリーダー的な人を求めている。端を発する人は独自に進められるが、そうではないところからの SOS の声を拾って、人や情報があるところに動きは出てくるので、そこで市役所も袂を脱いで、一緒に手を携えていきましょうというスタンスは必要なのかなと思うし、こういった取組周知を地域にしていってもらいたい。 ・外部をリードしようとする、それなりのリソースを割く必要があると想像するが、広くリソースを割くのか、限定的に深く関わっていくつもりなのか、行政の考えはどうか。
企画課	・テーマ自体が限定的であるので、庁内へ広げていくにあたり、簡単な案

	件、難しい案件によってリソースの割き方も変わると思う。 ・市民側からもこういった枠組みでできないかと声が掛かるのが理想だが、まだそこにはもう少し時間がかかると思う。
まちづくり 協働課	・まち協やコミセンを所管する立場からは、地域課題を募集するというよりは、すでにたくさん散在しており、それらから手を付けていくことが良策と考える。 ・どうしたらよいかという相談は日日ある。事業によっては専門部署もあるが、従来型の手法で対応しながら、でもそれだけでは難しかったり、市の予算があれば進むものではなかったり、組織として当てはまらないことなど複合的になっていることもある。ひとつのキーワードとして、オープンガバナンスを共通認識として地域に話に行くことができるのかなと思う。協働のまちづくりを発信しているが、まだ行政内部でも協働で進められていないところもあり、オープンガバナンスをキーワードに進められるといいなとイメージをしている。
会長	・実行方法はまだどこも確立できていない。近江八幡市らしいやり方を探り当てることも大切。 ・これまでの5年間で企画の試行錯誤だとしたら、これからの期間は実行の試行錯誤にしてほしい。
B 委員	・5年間色々な発見や、公募委員との関係構築など有意義なこともあった。 ・様々な行政ジャンルがあるなか、オープンガバナンスは市政スタンス、スタイル、どのように一緒にまちづくりを進めるのかという概念的なこと。市職員の姿勢や考え方と、大きく民間の様々なジャンルのプレイヤーが、民主的に情報を共有して進めるまちづくりが深まるとよい。 ・近江八幡市は協働のまちづくりに関しては条例を定め、市民も事業者も行政も一緒に進めようとする軸があるので、みんなで共有していけるとよい。デジタルツールなども活用しながら、市民や現場の人たちが考えていることを共有・展開できるとよい。 ・次の5年間ではデジタル活用ももっと進む。横浜市では自治会・町内会でもLINEを活用したりもしている。ここでの経験を活かしてほしい。 ・外から見ると、三方よしのキーワードは強い。市の政策の中にこのオープンガバナンスを展開するときに、三方よしの体現として、金融界や商工業界から積極的に資金調達面で持続可能性に通ずるサポートや仕組みづくりが生じるなど、協働のまちづくりにおいて期待したい。
F 委員	・オープンガバナンス推進協議会については、本日で一区切りとのことだが、委嘱任期は2年となっているが、取り扱いはどうなっているか。
企画課	・要綱では委員の任期は2年となっていることから、今回の委嘱となっている。そのため、協議会については最後となるが、委員として相談に乗って欲しい時には連絡する。
会長	・それでは委員としての立場は継続する理解でよい。
企画課	・その理解でよい。
G 委員	・地元自治会で道路に関する住民意識調査（アンケート）を現在実施中。

	それぞれがどのような思いを持っているかわからないので、全体会議ではなかなか来られない方の意見を取り入れることで、自治会活動が有意義になる。このオープンガバナンスの考え方も取り入れていきたい。
H 委員	・協働をキーワードに市職員と関わる機会も多いが、確かに行政にやってほしいと求めることが多いと感じている。自分たちも関わりたいと思った際に、対等な立場で仲間として一緒にやろうと言ってもらえると、やりやすさを感じていた。一緒になって作り上げたときに、そこにお金が発生しなくても満足感や、参加していることがこのまちのウェルビーイングにつながる達成感にもなり得ると思うので、「募集します」だけではなく、市職員と市民という区分けをなくして、「一緒に楽しくやりましょう」と、一緒に近江八幡を作る人として、仲間として声を掛けてほしい。
会長	・上から目線ではなく、一緒につくることが大切という話。市民自身が、やりがい、責任感が出てくると、よりまちを良くしていく。市の働きかけの仕方、市民も刺激を受けて変わっていく、そうすると非常に素晴らしい三方よしになっていく。ぜひ来年度の取組では実行に移してもらい、それを広げていってほしい。
I 委員	・振り返ると、令和2年度に協議会で検討いただいた内容はまさにその通り。まちの課題をいかに見つけ出すかについては、難しいということを感じている。地域も気づいていない違和感があると思う。こういう意味では非常に奥の深い取組であると思うし、協議会自体は一旦一区切りではあるが、まだまだ皆様から教えていただかないといけないことも多々あるので、引き続きよろしくお願いします。
A 委員	・まちづくり協議会は自治会の集合体。自治会ごとに課題も千差万別。立地や居住年数によっても様々であり、何を優先するかでまとまらないことも多い。こういった考え方をを用いて、一つ一つ解決に向けて動かなければならないと感じた。 ・オープンガバナンスから少しずれるが、市民も変わるという観点での話。他の会議に参加した際に、パブリックコメントに投稿しても返事はないし、どう取り扱われたのか結果も分からないので、投稿を辞めたという意見があった。市の考えや回答は、その時にきちんと明確にしてほしいと思う。それが市民も変わる一歩なのだと思う。
会長	・ご意見ありがとうございました。まとめとして、企画実施段階は終わり、今後の展開をしていくにあたって、今日の意見をお願いとして、提言にかえていこうかと思うが、よろしいか。(委員より異議なし)
事務局	3. 閉会 ・様々なご意見、有難うございました。この推進協議会自体は一区切りとさせていただきますが、オープンガバナンスの考え方自体は、これからも普及させていきたいので、引き続き皆様のご協力を賜りたい。 ・以上をもちまして、本日の協議会は終了とさせていただきます。年度末のお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございました。

以上